

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.37, No.2



市内尚絅学院高等学校2・3年生63名が附属図書館本館へ学習体験に訪れました。



山形県九里(くのり)学園高等学校10名が北青葉山分館へ見学に訪れました。



福島県立福島西高等学校2年生各100名が附属図書館本館・北青葉山分館へ見学に訪れました。



常設展 「清風一過—大島正隆の歴史学と民俗学」開催しました。

初夏号

Contents

巻頭インタビュー 館長がすすめる青春の一冊 2

EVENTS 新学期イベント 3

- 新入生向け図書館オリエンテーション
- 講習会「情報探索のススメ」に500名超の参加者!

TOPICS 4

- EUが東北にやってきました!
- 「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」開催
- 浙江大学の図書館長が来訪
- NHK教育テレビ『テストの花道』ロケ撮影

LEARNING 5

- 多読のすすめ ☆魔法の自習法☆

- 電子ブックを使おう!

SERIES 7

- 「ゆかりの人々」 野家啓一 教授
- 「つながり」の一冊 『夜と霧』

Information 8

- 学生選書企画「Student Book Harvest 2012」
- 後輩が大学にやってくる!
- この秋、本館のメインフロアが全面リニューアル
- ツイッターはじめました

Editor's notes 6

巻頭インタビュー

館長がすすめる青春の一冊



植木俊哉教授が附属図書館新館長に就任されました

プロフィール

植木 俊哉 教授 (UEKI, Toshiya)

- ・所 属：大学院法学研究科・法学部
法政理論研究専攻(研究大学院)
- ・研究分野：国際法学
- ・主要著書：「ブリッジブック国際法」第2版 信山社(2009)
(本館2F学閲, 法政実務図書室 A151/0203)



植木館長は、総務・国際展開・学術基盤担当理事でもあり、東北大学のため、みなさんのために多忙な毎日をご過ごされています。そんな植木館長にいくつか質問をしました。

Q1

館長に就任され、附属図書館にどのような印象をお持ちになりましたか？

東北大学の附属図書館には、歴史的に特に専門書に関して全国や世界に誇るべき蔵書の蓄積があり、大変素晴らしい学問的環境にあると思います。また、学生用図書の実質や閲覧スペースの整備等も進んでおり、学生が専門的な学習に取り組む雰囲気が素晴らしいと思います。

Q2

先生で自身、附属図書館をどのようにお使いになっていますか？

私自身にとって、自分の研究や論文を書く際などに、書庫に入って関係する著書を探して借りたりするなど、研究生活になくてはならない存在です。学生の皆さんには、電子ジャーナルといった最先端の研究ツールも最大限活用していただきたいと思います。同時に長い歴史の中で蓄積されてきた図書館が有する膨大な書物が持つ多面的な価値にも敏感であってほしいと思います。附属図書館の地下にある書庫の中に入って自分の専門分野(法学の中の国際法という分野です)に関する古い外国の書物を渉猟していると、時間と空間を越えてその書物が著された時代や著者の思いなどを想像して時間が経つのも忘れてしまい、個人的には人生の中で最も幸福な瞬間です。最近大学の管理運営業務が多忙で、そのような時間がなかなか持てないのが残念です。

Q3

先生の青春の一冊を教えてください。

東郷茂徳『時代の一面—大戦外交の手記』(中公文庫) 1989.7
東郷茂徳『時代の一面—東郷茂徳外交手記』(原書房) 1985.5

1941年に東条英機内閣で日米開戦を回避するため努力しながら果たせず真珠湾攻撃・日米開戦時の外務大臣となり、その後東条首相と対立して外相を辞職したが1945年の終戦時に鈴木貫太郎内閣で外務大臣に復帰し、日本政府のポツダム宣言受諾に身命を賭し、戦後巣鴨プリズンで病死した東郷茂徳の手記。1945年8月の御前会議でポツダム宣言受諾をめぐる対立した阿南陸相などとの激しい応酬や、受諾決定後の阿南陸相との最後のやりとりなどは、読む者の心を打つ。平和な時代の若い世代の人々に是非読んでもらいたい書物の1つです。(本館書庫 A99-Z/0102, GK138/021, 旧教養319/169)

吉田満『戦艦大和ノ最期』(講談社文芸文庫) 1994.8

東京帝国大学を繰り上げ卒業し海軍少尉として1945年3月に呉軍港を出港した戦艦大和に乗り込んだ筆者が、鹿児島県徳之島沖で米軍機の攻撃を受け大和が沈没するまでの何日間かを文語体の乾いた筆致で描いた記録。大和に同乗して海底に没した大半の者と運命を分け戦後は日銀マンとして生きた著者が、生き残った者の責務として次の世代の若者に伝えようとした「何か」を、その文語体の淡々とした記録の行間から読み取ることができます。(本館2F学閲新書講談社文芸 GB547/028)

……………植木館長、ありがとうございました。



新学期イベント

新入生向け図書館オリエンテーション

本館では、平成24年4月9日～11日の3日間、新入生向けの図書館オリエンテーションを開催しました。オリエンテーションでは、図書館利用法の説明や館内ツアーを行い、約450名の参加がありました。

大学図書館は、大学生の学習・研究に必要な学術資料と、それらを探すためのさまざまなツールを備えています。

一人で静かに学習する、蔵書やデータベースなどで情報を収集する、パソコンでレポートを作成する、グループでディスカッションしながら学習するなど、様々な使い方ができます。それぞれの学習スタイルに応じた図書館活用方法を見つけていただきたいと思います。



▶ 館内ツアーの様子



▶ 「自動貸出機」で図書を借りることも…

講習会「情報探索のススメ」に500名超の参加者！

大学生になると、「学術的な文章」を書くために「学術的な情報源」を使いしっかりとした準備をする必要があります。そこで、本館では情報探索法の講習会を開催しています。

4月は、新入生向け、文科系院生向けの講習会を実施し、500名を超える参加がありました。新入生向けは、「学術情報の探し方」「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「新聞記事の探し方」「事柄の調べ方」の基礎に

ついて学ぶもので、所要時間が各30分というのも魅力のようでした。文科系院生向けでは、「日本語論文の探し方」「外国語論文の探し方」を実習形式で学んでいただきました。

参加のきっかけは「教員の推薦」が圧倒的に多く、次いで「新入生向け図書館オリエンテーション」でした。アンケートには、「出席できてよかった」「論文の探し方がわかりとてもためになった」「これからのレポート作成に役立てていきたい」などの声が数多く寄せられました。



▶ 新入生向け「情報探索のススメ」の様子



▶ 本館のエントランスではハンドアウトも入手可

☆EU☆が東北大にやってきた!

平成24年5月17日(木)、EU(欧州連合)スタッフがEUのラッピングバスで本学川内北キャンパスプラザに訪れ、EUの説明やオリジナルグッズ配布などのPR活動を行いました。

これは駐日EU代表部が日本でのEUの認知促進を目的として実施するイベントで、5月14日から6月9日にかけて、「EUがあなたの街にやってくる：EU IN JAPAN ROADSHOW」と題して、EUのラッピングバスで東北から九州まで日本全国

を巡る企画です。本学には、当館が「EU情報センター」としてEU公式資料等の保存・提供および広報活動を行っていることから、全国ツアーの一番目に訪れました。

EUオリジナルのデザインで彩られたメルセデス・ベンツのバスの前には、EUスタッフが驚くほど、約500名もの学生が集まり、iPadを見ながらEUの説明を聴いたり質問するなどして、EUスタッフ(4名)との交流を楽しんでいました。



▶ 本イベントにあわせ、本館エントランスにおいてEU展示「ご当地キャラクターと巡るEU5カ国の旅」を開催

「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」で震災テーマのイベント開催

平成24年5月27日(日)に、附属図書館は図書館総合展運営委員会との共催で、「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」を川内北キャンパスマルチメディアホールにおいて開催し、約250名の参加がありました。

フォーラムのテーマは、「東日本大震災とMALUI連携」で、博物館・美術館(Museum)、文書館(Archives)、図書館(Library)、大学(University)、産業(Industry)のそれぞれが、東日本大震災の記録をどのように残し、今後活かしていくかについて、講演とパネルディスカッションにより考え

を深めました。

当日は、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦教授など、震災アーカイブ構築の最前線で活動している方々が講師、パネラーを努め、参加者に震災記録の作成・保存・公開の重要性を訴えたほか、附属図書館の館内ツアーも開催し、震災の被害の実態だけでなく、震災前の耐震改修工事の内容や、震災後の対応状況について紹介しました。

本館では震災の記録を収集し、「震災ライブラリー」で公開しています。ぜひ ご利用ください。



▶ パネルディスカッション



▶ 館内ツアー「被害の実態と事前の準備を学ぶ」

浙江大学の図書館長が来訪

平成24年6月4日(月)、中国浙江大学の図書館長と副館長が来館しました。浙江大学は中国でもトップクラスの大規模総合大学で、ある中国大学ランキングでは北京大学や清華大学をおさえて第1位となった実力校です。

今回の日本訪問は、先進的な活動をしている大学図書

館を視察するのが目的で、その最初に東北大学を訪問したということでした。楊國富館長と翟晶副館長は図書館の施設・設備や貴重資料を見学しましたが、とりわけ秋にリニューアルを予定しているメインフロアの完成予定図に関心をもっていました。



▶ ギフト交換する楊館長(左)と柳澤副館長(右)



▶ 貴重資料を熱心に見る楊館長(右から2人目)と翟副館長(同3人目)

NHK教育テレビ『テストの花道』のロケ撮影

平成24年5月17日(木)15:00～、附属図書館本館において、「Eテレ『テストの花道』キャンパスツアー in 東北大学」のロケに協力し、東北大学附属図書館が所蔵する「漱石文庫」、「狩野文庫」の紹介を行いました。

このロケは、5月16日(水)～18日(金)の3日間、高校生が東北大学の研究室や施設を訪ね、大学で学ぶ魅力を紹介

するという趣旨で、写真は片平、川内、青葉山、星陵、三条等の各キャンパスにおいてロケが行われたうちの一幕です。

この番組は、前編は6月18日、後編は6月25日、学生のインタビューも含めた拡大版は、6月23日、30日に分けて放映されました。



▶ 附属図書館正面玄関前のロケ風景



▶ 貴重資料等について説明中のロケ風景(附属図書館2号館)



多読のすすめ ☆魔法の自習法☆

(東北大学高等教育開発推進センター講師 Ben Shearon)

「多読」は外国語教育において「魔法の自習法」と言われています。「多読」に熱中する人は、無意識のうちに英語力(他の言語も同じ結果が出ます)が付き、読む・書く・聞く・話す力が伸びます。理由は簡単。沢山のインプットにより、文法・語彙・言葉の使い方が身に付きます。「多読」は難しくありませんが、成功させるためには、続けることが大切です。忙しい中でも、「多読」を続けるための五つの方法を紹介します。

1 楽しんで読む

「この本を読まなければいけない」というふうな気持ちからではなく、「昨日借りたあの本読んでみたい」という思いから読むほうが成功します。ですから、自分の好きなジャンルや面白そうと思う本を選んで読んでください。

2 無理のない本を選ぶ

「多読」を始めるときは、まだ英文を読むことには不慣れな状態です。長すぎるものや難しすぎるものは、たとえそれが好きなジャンルであってもやる気を損ねてしまう危険があります。初めは「簡単すぎる」と感じる本をいくつか読んでください。

3 計画を立てる

「今週(今月・今年)は〇冊ぐらいを読みたい」といったふうに、目標を立ててから始めると成功しやすくなります。自分の目標に達することが出来た時は、自分自身に何かご褒美をあげるのもよい方法です。

英語は、運動と同じように考えます。毎日少しずつでも、それをやる。そうすると、気が付かないうちに立派な体(英語力)が出来上がっていきます。頑張ってください!

<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/main/pub/readers.html>

4 読む習慣を作る

毎日の生活の中での同じ時間、例えば、寝る前、朝一番、お昼休み、バスの中など、あなたが本を読みやすい15分間に読む習慣をつけると、すぐに一冊の本を読み終えることが出来ます。その習慣を作らないと読むことが続かなくなるかもしれません。

5 多聞を足す

読むだけでなく、その本に付いているCDを借りて、英語を聞きながら読むとさらに効果があります。またCDを聞くことにより、よりスムーズに完読することが出来ます。



▶ 熱心にリーダーズを読む学生たち



電子ブックを使おう!

電子ブックがOPACで検索可能

電子ブックとは、本を電子化し、Web上で読むことができるようにしたものです。重たい本をあちこち開かなくても読みたいページを探せる詳細な本文検索や、メモの書き込み、引用文献へのリンクなどの機能が充実しています。冊子体が貸出中でも利用できます。*

Ebsco Host社のE-book Collection(旧 Net Library)など、1400点あまりが蔵書検索(OPAC)から検索できます。(2012年5月末現在)

利用の仕方

- 1 OPACの蔵書検索結果一覧で電子ブックには のアイコンが表示されます。
- 2 書誌詳細画面下方の所蔵一覧に表示される のアイコンをクリックします。
- 3 電子ブックのプラットフォームへ接続し、電子ブックを閲覧できます。

冊子体と電子ブックの両方を持っているときは、「電子体」「冊子体」のリンクで、双方の書誌と行き来できます。電子ブックは、OPACから検索できるものの他、電子ブックページのリストから利用できるものもありますので、ぜひ活用してください。

電子ブックページ http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/src/index.php?cat_id=1

※電子ブックの同時アクセスは原則1です。

※学内ネットワークからの利用に限られます。



▶ 例は「国史大系」のOPAC検索結果
左端の[EBOOK]アイコンをクリック

SERIES

「ゆかりの人々」～文学研究科 野家啓一 教授

シリーズ「ゆかりの人々」は「東北大ゆかりコレクション」にちなみ、東北大学にゆかりのある人々とその著書について、著者ご本人に様々なエピソードを含めてご紹介いただくコーナーです。シリーズ初回は、前附属図書館長の野家啓一教授（文学研究科、哲学専攻）に伺いました。

パラダイムとは何か（講談社学術文庫、2008）／野家啓一著

「パラダイム」という言葉は、今日ではごく普通に使われていますが、もとはトマス・クーンが50年前に刊行した『科学革命の構造』（1962）の中で、新たな科学史叙述の枠組みを提起するために導入した概念です。本書では、クーンの「パラダイム論」とそれが引き起こした論争を横軸に、近代科学の成立と展開を縦軸にして、「科学とは何か」という問いに答えることを試みました。（本館2F学関新書講談社学術 US1/0229/1879）

歴史を哲学する（岩波書店、2007）／野家啓一著

私の専門は「科学哲学」と呼ばれる分野ですが、歴史が科学であるか否かについては、これまでさまざまな議論が闘わされてきました。本書では「歴史の物語り論（ナラトロジー）」という視点から歴史叙述の本性を解明することを試んでいます。講義形式で書きましたので読みやすいかと思いますが、より本格的な考察をお望みの方は拙著『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005）を参照いただければ幸いです。（本館メインフロアゆかりコレクション H142/018）



▶ 野家研究室にて

数学者の哲学・哲学者の数学（東京図書、2011）／砂田利一・長岡亮介・野家啓一著

尊敬する数学者と数学史家のお二人と共に、数学と哲学の関わりについて歴史的観点から論じた鼎談集です。現在は水と油のように見える数学と哲学が、歴史を遡れば同根であり、相互に密接な関係のあったことがおわかりになるかと思います。編集作業の途中で東日本大震災に遭い、急速「学問の責任について」という最終章を加えましたので、アクチュアルな意味を併せもった本になりました。（本館メインフロアゆかりコレクション H151/084）

SERIES

〈つながり〉の一冊 『夜と霧—ドイツ強制収容所の体験記録』

「生」に向き合うとき

（大学院文学研究科ドイツ文学専攻分野2年 山口貴文）

シリーズ「〈つながり〉の一冊」は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上、影響を受けた本などを紹介してもらう連載企画です。



V.E.フランクル『夜と霧—ドイツ強制収容所の体験記録』

霜山徳爾訳、みすず書房、1956年（本館2F学関 GA87/022、本館書庫 US21/041）

本書はオーストリアの精神医学者であるV.E.フランクルが、強制収容所の体験を経て執筆した回想録である。筆者特有の透徹した眼差しをもって、平穏が奪い去られた闇の世界を静かに描いてゆく。

本書に出会ったのは中学生のときである。読み進めるうち、文字から浮かぶイメージが、質感を伴って現出し、頭から離れなくなっていく。自分が生きている世界が、描き出された世界と連続しているということが信じられなかった。（自分がもしこの世界に生きていたら——）底知れない戦慄が走ったのを今でも覚えている。

思えば、この本が、私が文学部を志す契機であったのかもしれない。自身の研究テーマを「戦争」とし、人文学の見地からその事象を考察してみたいと考えたのも、根底には本書の影響があったように思われる。

愛、尊厳、未来——日々氾濫するこれらの言葉は、ともすれば抽象性ばかりが先行し、空虚な音の塊や線の集合にすぎなくなってしまう。しかしながら、冷徹な筆致の中で、時折漏出し、見出されるこれらの観念は、揺るぎない実体として感知される。それは、筆者の強靱な「生」への意志にぶつかる瞬間であると同時に、言葉の「力」に触れるという読書体験の本質に迫る瞬間でもある。限界状況の中でも損なわれることのなかった筆者の高潔な精神と、「今」を生きる我々に託されたメッセージは、これからも決して色褪せることはないだろう。

世代を問わず、広く薦めたい一冊である。

Information

学生選書企画「Student Book Harvest 2012」開催予告

今年も、学生選書企画「Student Book Harvest 2012」を開催します。
「Student Book Harvest」とは、附属図書館に置いて欲しい学習用の図書を、
学生が書店で直接選んだり、1つのテーマを設定して図書を選定する企画です。
開催時期は、今年の秋頃を予定しております。参加方法などは決まり次第館内
に掲示しますので、そちらをご覧ください。

「Student Book Harvest 2011」に参加した学生さんお薦めの一冊はこちら↓

『日本のパワースポット案内 巨石巡礼50』/岡田謙二 著 秀和システム 発行
2011.10 (本館メインフロア学生選書コーナー GB645 / 074)

この本は岩石・考古・宗教・自然の接点を見出せる点で面白いと感じ選書しました。遺跡や神社・奇岩などの綺麗なカラー写真が多く掲載され、古くから石は日本人にとって身近であり自然への畏敬の念を起こさせるものだった事がよく分かります。特に日本におけるストーンサークルの存在は興味をそそられ実際に巡ってみたいと思いました。(理学部3年 中嶋灯奈)



▶ 本館メインフロア学生選書コーナー

後輩が大学にやってくる! 附属図書館オープンキャンパスを開催します♪

平成24年7月30日(月)、31日(火)の2日間、東北大学オープンキャンパスを開催します。附属図書館では、これから大学を目指す高校生に大学図書館の雰囲気を知ってもらうため、本館、医学分館、北青葉山分館、工学分館、農学分館の各館で、図書館資料等の展示や、図書館オリエンタリングといった企画を実施する予定です。

皆さんの後輩が多数大学を訪れ、大学での学習・研究に欠かせない図書館を見学します。国立大学中トップの来場者数を誇る東北大学でも附属図書館は学内1、2位を争う入館者数となります。当日は混雑が予想されますが、「将来の大学生」が気持ちよく見学できるよう、ご協力をお願いします。



▶ 昨年のオープンキャンパス

この秋、本館のメインフロアが全面リニューアル

本館1階メインフロアは、創立100周年記念事業として、床の工事・什器の入れ替えを行い、この秋全面リニューアルします。

図書館では、静かな学習・研究スペースだけではなく、図書館資料を活用しながらグループでディスカッションし、主体的に学習できるスペースを提供します。



▶ 新メインフロア俯瞰図
75台のPC、約80席のグループ学習席を備えます



▶ フレキシブルワークエリア



▶ 長時間PCワークスペース・
グループワークボックス



▶ 短時間PCワークスペース



ツイッターはじめました

twitterで図書館とつながろう! hagi_no_sukeは、東北大学附属図書館のツイッター公式アカウント。東北大学生の学習と生活のためにつぶやいています。平成24年6月からの正式運用ですので、ぜひフォローしてください!

Editor's notes

今年の附属図書館は、工事続きで、利用者の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、スタッフ一同、できる限りのサービスを行いますので、11月のメインフロアリニューアルオープンにご期待ください。

また、本号から新たに連載を開始しました「シリーズつながりの一冊」は、学生リレー執筆により「つながる」コーナーです。ぜひ、奮ってご参加ください。

次号は、読書の秋♪にちなんだ記事をお届けいたします。